めいろうこどもえん　5月園だより

２０２１年度　年主題〈共に喜んで～すべての歩みの中～〉

0･1･2歳児５月主題「だいじょうぶ」

月のねがい

◎神さまのお守りの中、園生活に慣れていく。(0)
◎おだやかでやさしいことばをかけられ満たされて過ごす。(0)
◎保育者に守られ安心して過ごす(0)
◎お祈りやさんびかに親しむ(1.2)◎一緒にいる保育者や友だちと安心して過ごす(1.2)◎周りの大人に十分に受け止めてもらって、思いを表現する(1.2)

3･4･5歳児５月主題「動き出す」

月のねがい

◎保育者や友だちと一緒にさんびかを歌うことやお祈りをすることを喜ぶ。(3)
◎身の回りのことを保育者に助けられながら安心して行う。(3)
◎与えられている時・もの・こと・人・自然などの恵みを喜び、神さまに感謝する。(4.5)
◎感じて考えて、自分のやり方で動き出し、様々なこと(遊び) に興味をもつ。(4.5)
◎まわりの人に支えられながらも、自分の思いをもって主体的に生活する。(4.5)

今月の聖句　「私たちは互いに愛し合いましょう。」

Ⅰヨハネ4:7

2011年の東日本大震災で、私たちは改めて津波の恐ろしさを知りました。それ以降、日本各地に「津波到達水位」が掲示されるようになりました。東京や大阪の街中でも、津波が起こったら、この高さまで津波が押し寄せることを示す水位線が掲げられ、いざという時に備えるよう、啓発運動がなされています。

聖書は「神は愛である」(Ⅰヨハネ書4:8)と語りますが、ある人がこの聖書のみ言葉は水位掲示板のようなものである、と言いました。日本人が「津波到達水位線」を見て、津波に備えようとするように、「神は愛である」という聖書のみ言葉に触れて、人は自分たちが互いに愛し合うべき存在であることに気づかされるのです。

世の中には、地震や津波、台風や水害、そして新型コロナウィルスのような天災が尽きません。また、そのような災害の後に、必ずと言っていいほど人災も続きます。神が愛であるならば、どうしてそのようなことを許されるのか、という考え方もあるでしょう。けれども、そういう時にこそ、人は愛を必要とします。天災や人災がなくても、人は愛を必要とするのです。「神は愛である」という注意喚起を促すみ言葉に触れ、私たちは互いに愛し合うべき存在であることにも気づくのです。神が愛であるからこそ、私たちも互いに愛し合い、私たちが互いに愛し合う中に、また、神の愛の片鱗が現れるのです。

教会協力牧師　池田基宣

５月の行事予定

10 ～ 20 日	家庭訪問
13･20 日(木)	弁当日
１４日（金）	５月誕生会
２７日（木）	交通安全教室
24 ～ 28 日	フリー参観
２８日（金）	内科健診
２９日（土）	職員研修(不審者対応)

６月の行事予定

５日（土）	職員研修（熊毛地区）
１６日（水）	歯科健診
２３日（水）	６月誕生会
２６日（土）	夏祭り実行委員会

新しい環境の中で・・・

入園、進級からほぼ1ヶ月が経ち、子どもたちも園生活に少しずつ慣れてきました。少しずつ好きな遊びや落ち着く場所などを見つけて始めました。

園庭は毎日とーってもにぎやか！大きくなったピーピー豆（カラスノエンドウ）を探して、ピー！と口に咥えて音が出ると嬉しそうに見せにきてくれます。先日は1歳児の女の子も音が出て、周りの子どもたちも先生もびっくりでした。また、「てんとう虫見つけた！」と声がすると、年長児も小さい子も「どこ？どこ？」と食い入るように覗きにやってきます。年中長児はすり鉢で花を潰して色水遊びに夢中！黄色や紫、緑、泥が混じって茶色に…（笑）。日に日に色水の色が増えています。“春”を目や耳、匂いなど全身で感じて過ごせた4月だったように感じます。

もも組やあじさい組では新しいクラスになり、最初は緊張していた子どもたちもだんだん「いや！」と自己主張できるようになってきました。「いや！」が言えるのは新しい環境に慣れてきた証かなと感じます。在園児は身の回りのことにも少しずつ興味が出てきたようで、『やってみたい！』と挑戦してみるけれど、うまくいかず怒ったり、泣いたり…と嬉しさも悲しさもイライラも全力で表現しています。そんな気持ちを受け止めながら、ゆったり関わっていけたらと思います。

5月は連休後は園に行くことを渋ったり、涙が出てしまったりする子もいるかもしれませんが、またゆっくりゆっくり園生活に慣れていけたらと思います。朝は笑顔で「いってらっしゃい」と送り出して、帰ってきたら“ぎゅーっ”と抱きしめてあげたら、きっと子どもたちのパワーが充電されることと思います。5月もいっぱい遊ぼうね。　　主任:大河

その子らしさ　～かいじゅうたちのいるところ～

慌ただしかった四月も終わりを告げ、いよいよ木々の緑が濃くなってきました。半袖で過ごす子どもたちも日常になりつつあります。昨年の今頃は、全国一斉の非常事態宣言真っただ中でした。都市部の非常事態宣言を聞くと、今も状況はあまり変わっていないように感じています。医療従事者の方のご苦労や亡くなられた方のご家族の心情を自分のこととして心に重く置きたいものです。子どもたちの泣き声や笑い声に包まれる空間は、生命の活力に満たされ愛しいもの。一日も早く、すべての人にとって平安が与えられますよう祈ります。

私事ですが、娘の出産帰省の為、しばらく孫（四歳男児）と同居することになりました。今の彼のブームは、「カーズ」と「恐竜図鑑」。気が向けば、ティラノザウルスになって大声で走り回って吠えまくっています。居間は段ボールで創った隠れ家や自動車が散乱し、仕事の後の憩いの空間はすっかり失われました。そこで思い出したのが、絵本「かいじゅうたちのいるところ」。いたずら好きのマックスがお母さんに怒られ、かいじゅうたちのいるところへ行って帰ってくるシンプルなお話です。ご覧になった方はお気づきでしたでしょうか？表紙にも出てくる怪獣の足のことを。一頭だけ人間の足をしていますね。マックスを木の陰からのぞいたり、一緒に大暴れして寄りそうように眠ったり、かいじゅう踊りをして背負ったり。この存在はもしかして…。この絵本には様々な解釈があるようですが、自ら成長しようとする子どもの本質がジワジワと味わえるのでお薦めです。

新しいことに出会うとき、大人はその人なりの経験で予測や準備ができます。しかし、子どもは入園や転園をすることも、進級することも白紙からの出発です。白い紙の上にいくつもの絵の具が散らされるように、自分が置かれた状況に直面します。そこから各々がそれなりに動き出し、多くのことに出会います。新しい場所、仲間、先生、あそび、園生活の流れ。「こういうこともあるんだ！」と深く知っていく中で、うまくいく心地よい体験や思うように任せない苦い体験をしていきます。その過程に”その子らしさ”が出てくるのです。興奮して収拾がつかなくなる子、逆に身動きができなくなる子がいます。想定外のことに出会ったときに強行突破する子もいれば、さっと引いてしまう子もいます。これが”その子らしさ”の現れなのだと思います。その子らしさというのは、時には私たちを戸惑わせたり、イライラさせたりするものでもあります。それを見て大人の気持ちや都合で、「これは困る」「こんなはずではなかった」と評価されるのは、子どもにとっては迷惑なことです。私たち保育者も、子どもがやがて自分で作った枠に収まることが自分の成果と喜ぶのではなく、その子の経験から学んだ結果として捉えなければならないのです。

子どもたちはそろそろ疲れが出始める頃です。連休をご家族で楽しまれながら、どうぞ十分な休養もお願いしたいと思います。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に応じた食事や睡眠に留意し、保護者の皆様のご協力をいただきながら楽しい園生活を支えていきたいと思います。

園長

友だちとトラブルになったら

４月も後半になってくると、友だちと遊びだす姿が見えるようになってきます。一方で、友だちと関わる時に緊張したり、言葉でうまく表現できない子どももいます。また、関わりが増えることでいざこざも多くなってきます。

そんなこの時期のねらいを「保育者や友だちと関わりながら、一緒に過ごす心地よさを感じる」としています。この時期に私たちが大切にしたいのは「友だちっていいな！」「一緒って楽しいな！」という他者に対する基本的な信頼感を築くことだと思っています。いざこざや困ったことが起こっても、その時を保育者も一緒になって楽しいなりがら、一緒に過ごす心地よさを感じる方が楽しり、ちいんいざこざなと感じて友だちいんなと体験を通しばいいなとやってらいて行けばよいのだと学んでよいのです。

面白さや驚きを体験しよう

子どもたちの感性は敏感です。戸外に出て過ごすようになると、様々なものに反応します。そこで、この時期のねらいを「身近なものに関わりながら、面白さや驚きを感じる」としています。「出会いを支える」ことと「邪魔をしない」ことをしていると、様々な身近な自然物との出会いが生まれます。そのときに子どもたちが感じている「おおっ！」とか、「わあ！」を一緒に受け止める存在でありたいと思います。もう一つ大事にしたいのは五感すべてを使えるような工夫をすることです。現代社会は視覚優位で、他の感覚を使うことが少なくなっていると言われています。感性豊かなこの時期に素朴な自然物を味わったり、自然の匂いを嗅いだり、様々な物に触れてみる経験をすることは、原体験として子どもたちの心に深く刻まれ、豊かな感性が育ちます 。

五感を通した原体験を積み重ねていくことが、ほんまに大事なんよね

著者：松元伸吾